

実況中継

京都市右京区・自然幼稚園「お弁当同窓会」

同じ幼稚園の仲間を再確認

1年前のクラスで思い出のお食事会



▲雨上がりの朝、いろいろな樹木、大きな鳥小屋(左奥)がある園庭の水たまりをよけて登園。

◀まずは勢至丸様(法然上人の幼児期)に今日一日の無事をお祈りする。

▼77年の思い出が染みこんだ木造園舎。しかしこの文化財的園舎も創立80周年を機に建て替えられる計画が進んでいる。何だか寂しい思いもする。



勢至丸様と動物慰霊碑に挨拶

2008年3月10日(月)、朝方まで降り続いた激しい雨はやんだが、子ども達の多くは合羽に長靴の雨支度で登園してきた。まずは勢至丸様(法然上人の幼名)の像に手を合わせ、今日を迎えた感謝を伝え無事を祈る。自然幼稚園(木藤尚子園長)は浄土宗・悟真寺を母体にした幼稚園なので、子ども達はこの礼儀を決して欠かさない。

お寺の墓地と園舎の間に「動物慰霊碑」が建っていて、同園で生涯を終えたたくさんの動物たちが供養されている。その慰霊碑に頭を垂れてから部屋に入る子も多い。知り合いが眠っているのだろう。

子ども達が冬のあいだ着るトレーナーは、どれも園章の小鳥(写真)が背中にプリントさ



れているが、色は緑と茶の2種類ある。自然幼稚園の名のとおり草木の緑と大地の茶を選んだとのこと。子どもは好きな方を選ぶ。うまい具合に半

々に分かれているよう見えたが、よく数えてみると緑派の方が若干優勢だった。中には両方とも買って、交互に着ているお洒落な子もいるそうだ。

10時、子ども達が数珠を手にしてホールに集まってきた。毎週月曜の朝は仏参があるのだ。内陣の前に代表の5人が座り、それに合わせて礼拝、合掌をし、仏様の歌、自然幼稚園の歌を歌って黙祷した。元気な声が響き渡る幼稚園にあって厳かなひとときが流れた。

園長先生からは、先週、皆で知恩院(浄土宗総本山)に出かけたときの話があり、阿弥



月曜朝の仏参。年長さんには最後の仏参であり、幼稚園生活最後の1週間の始まりである。内陣には園長の両親である創設者夫妻の写真も飾ってある。



去年の担任の先生が当時の名簿を見て名前を呼ぶ。「毎日みんなの顔を見ているのに、なんだか懐かしいな。どうしてだろう？」と言いながら。

陀様の手の形(印相)にはいろいろあり、それぞれに意味を持っていることが教えられた。年長さんにとっては幼稚園で過ごす最後の1週間の始まりであり、最後の仏参である。

なんで懐かしいんだろ？

部屋に戻った子ども達は、担任の先生から今日の「お弁当同窓会」の内容と日程を聞く。先生が1人の子を呼び寄せた。「みんな見てごらん。〇〇くんの胸には名札が二つ付いてる。年中さんのも付けてきはったんやね。気合い入っているね」



呼ばれた子が嬉しそうに胸を張った。

10時30分。子ども達の部屋移動が始まった。年長さんは年中時代、年中さんは年少時代のクラスに戻る。毎年クラス替えが行われるので、行き先は入り乱れる。そこには当時の担任の先生が待っていた。戻る場所のない年少さんは年長の部屋に行き、去年年長を担任した先生と一緒に遊ぶのである。

去年の担任の先生が、1年前の名簿を見ながら1人1人の名前を呼ぶ。

「うわ、大きくなったな。顔も賢そうになった」「〇〇くんは、すぐ隣にちょっかい出して、相変わらずやな」

「なんや知らん、懐かしいな。先生、みんなのこと毎日見てるのに、どうして懐かしいんだろ？」

「ぼくも懐かしい」

「部屋が変わったからだよ、きっと」

退職した先生が戻ってきたわけではなく、毎日顔を合わせ遊んでいる間柄なのだが、先生も子ども達も「懐かしい」を連発する。見学している立場では不思議に思うが、本人たちは大まじめだった。集団生活がなせる不思議な感覚のひとつなのだろう。

子ども達の自己紹介が始まった。

話す中身は5つ。「自分の誕生日」「4月から行く小学校」「年中のときの思い出」「好きなお友だち」「大きくなったら何になる」だ。